

魅力発信！えひめ農業NOW

令和4年10月

【お知らせ】

魅力発信！えひめ農業NOWは、県ホームページ(※1)で、県下全地区の内容について、閲覧できます。

※1 掲載場所：ホーム＞仕事・産業・観光＞農業＞農業の魅力発信

※2 この動向は、10月中に各普及地区から報告のあったものを取りまとめたものです。

～愛媛県農林水産部農業振興局農産園芸課～

〒790-8570

愛媛県松山市一番町4丁目4-2

(TEL) 089-912-2558

(FAX) 089-912-2564



<http://www.pref.ehime.jp/noukei/>




目次

目次	1
10月のトピックス5選	3
女性農業者の新たな組織活動を支援	3
オリーブの島を目指して	3
「甘平」裂果対策に土壤水分の見える化が有効か	4
直売所向けの新規品目に寒じめいちご	4
いちご栽培における IPM 技術の導入推進	5
えひめ農業 NOW	6
■東予地方局 地域農業育成室	6
農家アドバイザー等が就農初期農業者らを指導	6
改良型複合柵によるサル被害軽減効果を検証	6
■東予地方局 地域農業育成室 四国中央農業指導班	7
観光施設から「うま茶」を県内外へ発信	7
食農教育としてサツマイモの収穫体験を実施	7
有害鳥獣を寄せ付けない地域づくりに向けた現地講習会の開催	8
■東予地方局 産地戦略推進室	8
首都圏において3JA 合同で東予産花木を PR	8
自家産米加工品の新たな販路を開拓	9
■今治支局 地域農業育成室	9
学校給食用「ひめの凜」の実証試験ほど収穫はじまる	9
菊間地区甘平部会栽培講習勉強会	10
海洋汚染防止対策とコスト低減を目指した施肥基準づくり始まる	10
集落ぐるみの鳥獣害対策に向けて	11
■今治支局 地域農業育成室 しまなみ農業指導班	11
鳥獣害対策集落見回り活動を実施	11
■今治支局 産地戦略推進室	12
しまなみ食材の販売促進に関する協議	12
■中予地方局 地域農業育成室	12
中予地域いちごセミナーを開催	12
かんきつ園地における石積み技術講習会を開催	13
女性目線で農業用追従ロボットの実用性を検討	13
興居島で女性農業経営者育成に向けた研修会を開催	14
■中予地方局 地域農業育成室 伊予農業指導班	14
スマート農業の現地実演会を開催	14
伊予市で農福連携マッチング！	15
青年農業者が農業簿記研修	15
青年農業者が鳥獣被害の多い集落の見回り実施	16
■中予地方局 地域農業育成室 久万高原農業指導班	16
農福連携に係るピーマン収穫作業のジョブコーチを実施	16
青年農業者組織が地域イベントで雑穀を PR	17

久万高原町秋の収穫祭、雑穀料理でおもてなし	17
第2回久万高原ブランドづくり推進会議の開催	18
■南予地方局 地域農業育成室	18
「市田柿」の生産拡大に向け地域で共同作業	18
広見川流域の農業濁水軽減米を試験販売へ	19
■南予地方局 地域農業育成室 鬼北農業指導班	19
集落に合った営農体系を学ぶため先進地を視察	19
大規模くり園に草生植物を高密度は種	20
■南予地方局 地域農業育成室 愛南農業指導班	20
就農研修生を優良かんきつ園地に案内	20
青年農業者にドローン防除の園地視察を実施	21
■南予地方局 産地戦略推進室	21
低樹高化によるゆずの作業性改善	21
■八幡浜支局 地域農業育成室	22
管内農業者のGLOBAL G. A. P. 認証に向けた内部検査の実施	22
マルドリ栽培による園地管理と傾斜園地の基盤整備事例を学ぶ	22
首都圏の小学生にかんきつ出前授業を実施	23
スマート農業AI 選果機、精度向上を目指した実証始まる	23
鳥獣害防止対策に向けた見回り活動等を実施	24
■八幡浜支局 地域農業育成室 大洲農業指導班	24
青年農業者が地元企業と商品開発を模索	24
■八幡浜支局 地域農業育成室 西予農業指導班	25
高校生が大野ヶ原にんにくの植え付け体験で生産者と交流	25
■八幡浜支局 産地戦略推進室	25
フィンガーライムの産地化検討会を開催	25
■農産園芸課 高度普及推進グループ	26
「『ひめの凜』金賞プロジェクト」収量、品質調査を実施	26



10月のトピックス5選

標 題	女性農業者の新たな組織活動を支援		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和4年10月5日、27日、28日	場所	西条市大町、県立西条農業高等学校、京都府、大阪府	
指導対象	一次産業女子ネットワーク組織 たべとうみん（6人）	連携 機関		
普及指導 内容	<p>○たべとうみんの新たな取組みを支援するため、「媛の国一次産業女子活躍推進事業」を活用し、米粉を使った加工品開発に向けた西条農業高校生との試食会を開催した。</p> <p>○また、旬菜ボックスへ入れる農産物の新規開拓や他地域での売れ筋野菜、農産物の陳列やPR方法等について、京都府・大阪府で先進事例研修を実施した。</p>			
結果と今後	<p>○同校との試食会では、米粉を使った「お焼き」「ピザ生地」「ケーキサレ」の提案・実習・試食を行った。今後、組織内で試作を重ねて加工品を完成させた後、調理工程の動画を制作するとともに、旬菜ボックスに入れる米粉に動画閲覧用QRコードを添付し、情報発信する予定。これらについても同校と連携し進めていく。</p> <p>○先進事例研修では、女性目線で直売所運営に取り組む「旬の駅京都店」において、レシピの提案や生産者の顔が見える動画配信などの販売促進活動を確認したほか、「食の大使館」認定店においては、県産農林水産物の活用状況やどんな農産物が求められているかなどを学んだ。</p> <p>○これらの研修会で得た内容を活動に活かしていくため、11月、12月にはSNSを活用した情報発信研修会を実施することとしている。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div> <p style="text-align: right; margin-top: 10px;">左：生徒が米粉を使ったお焼きを試作試食 右：直販所で農産物の売れ筋などを研修</p>				


標 題	オリーブの島を目指して		機関名	今治支局産地戦略推進室
年月日	令和4年10月20日、21日	場所	20日) ポパイズクラブ園地 21日) NPO 法人アクションアイランド 事業所	
指導対象	オリーブ生産グループポパイズクラブ、NPO 法人アクションアイランド	連携 機関	20日) 今治明德短期大学、FC今治 21日) 今治市立大島中学校	
普及指導 内容	<p>○オリーブの産地PRと将来の担い手確保、利用促進を目的として、20日に今治明德短期大学調理ビジネスコース生20人とFC今治の選手2人を吉海町のオリーブ園に招き収穫体験会を開催した。</p> <p>○21日には、大島中学校1年生30人を対象に大島のオリーブ栽培を学ぶ学習会と苗木づくりの体験会を開催した。</p>			
結果と今後	<p>○20日の収穫体験では、テレビ取材で来園したタレントの村上ジョージさんも加わり収穫を行うほか、大学生が考案した9種類のオリーブ料理を試食した。</p> <p>○21日の苗木づくり体験会では、座学で現地映像を見ながら大島での栽培の様子を紹介。苗木づくり体験では生徒が500本の穂木を挿し木するなど栽培に興味を持ってもらうことが出来た。今後は2月の鉢上げ体験を経て、令和6年春には育てた苗木を各生徒に自家栽培用に配布するほか、地域の耕作放棄地への植樹を計画している。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">    </div> <p style="text-align: center; margin-top: 10px;">短大生等による収穫と料理の試食 地元中学生の栽培学習会 地元中学生の苗木づくり体験会</p>				



標 題	「甘平」裂果対策に土壤水分の見える化が有効か		機関名	中予地方局産地戦略推進室
年月日	令和4年10月6日～18日	場所	松山市、伊予市、砥部町	
指導対象	「甘平」生産者（12人）	連携機関	久万高原農業指導班 JA えひめ中央、JA 松山市	
普及指導内容	<p>○「甘平」の連年安定生産技術の確立を目指し、JA 指導員等と連携して、裂果対策実証ほ（12ヶ所）の裂果率調査及び生産者聞き取り等を実施した。</p> <p>○各園地3樹の全果実を数えた後、「甘平」の樹上選果の目安である樹の容積1m³あたり12果程度に果実数を調整。また、摘果果実等を供試し果実分析（糖酸）を実施した。</p>			
結果と今後	<p>○土壤水分計に基づくかん水管理を行う実証ほでは、裂果率が低い傾向であった。</p> <p>○水分計設置者からは、「かん水のタイミングが明確になった」「裂果が少なかった令和3年度並みに抑えられた」の声があった一方、「水分計の導入により、かん水頻度が増え、手間も増えた」との声もあった。</p> <p>○そこで、久万高原農業指導班と連携し、ピーマンで普及が進む日射制御型自動かん水装置の調査を開始。水源の確保が課題となるが、JA等と協議しながら、かん水管理の省力化に向けて、導入の可能性を検討する。</p> <p>○今後は、果実品質等も含めたデータを取りまとめ、関係機関及び生産者へ配布するほか、次年度の試験計画協議と試験結果報告会等を実施する。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>裂果最盛期の調査園（左）と対照園（右）</p> </div> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;">  <p>日射制御型自動かん水装置</p> </div> </div>				



標 題	直売所向けの新規品目に寒じめいちご		機関名	南予地方局産地戦略推進室
年月日	令和4年10月25日	場所	宇和島市三間町	
指導対象	いちご生産者	連携機関	道の駅みま	
普及指導内容	<p>○生産者の所得確保に向けた取組みの一環で、直売所用新品目導入を推進している当室は、高い収益性が期待できる寒じめいちごの実証ほを設置している。</p> <p>○簡易で狭小な施設でも取り組める反面、受粉用ミツバチがコスト高となることから、小規模栽培の受粉対策として、ヒロズキンバエの利用を検討しており、同日1回目の放飼を行った。</p>			
結果と今後	<p>○実証ほ場では、定植後概ね順調に生育し、10月21日頃から開花。今後、7～10日間隔で放飼を継続する予定。</p> <p>○収穫するいちごは、道の駅のイチオシ商品として特設売り場を設置することとしており、一般品との差別化を図ることで、消費者だけでなく他の出荷者からの注目を集め、売り場の活性化につなげたい考え。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> <p>左：設置した実証ほ 右：ヒロズキンバエの訪花</p> <p>【ヒロズキンバエ】 新たな花粉媒介昆虫として、低温寡日照によるミツバチの活動不良対策としても期待されている。</p> </div> </div>				



標 題	いちご栽培における IPM 技術の導入推進		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班
年月日	令和4年10月12日	場所	西予市宇和町、宇和農産センター	
指導対象	いちご生産者（18人）	連携機関	JA ひがしうわ	
普及指導内容	<p>○JA ひがしうわいちご部会秋期研修会において、現地研修で病害虫の発生状況を確認するとともに、IPM 技術導入の推進を行った。</p> <p>○天敵導入時には、放飼前防除を徹底して天敵の定着を図ることや、放飼後の薬剤選択を周知するとともに、赤色防虫ネットの効果について紹介した。</p>			
結果と今後	<p>○部会内の天敵導入生産者は過去5年間で0戸から8戸に増加。赤色防虫ネットは、今年度新たに1戸が導入し、関心を持つ生産者も出てきている。</p> <p>○既に導入済みの生産者についても、毎年継続して放飼しており、天敵利用については定着が進んでいる。</p> <p>○今後、本ぽでの栽培が本格化することから、定期的な個別巡回により各生産者の状況を把握しながら適宜指導を行うとともに、一層の IPM 技術の普及推進を図る。</p>			
				<p>左：生産者ほ場での現地研修 右：栽培管理等について指導</p>



えひめ農業 NOW



標 題	農家アドバイザー等が就農初期農業者らを指導		機関名	東予地方局地域・産地両室
年月日	令和4年10月26日、31日	場所	東予地方局西条第2庁舎	
指導対象	就農初期農業者（のべ19人）	連携機関	西条市、JA周桑、JAえひめ未来	
普及指導内容	<ul style="list-style-type: none"> ○農家アドバイザーである西条地区認定農業者等連絡協議会役員と協力し、就農初期農業者及び就農予定者にさといも栽培のポイントを指導した。 ○農家アドバイザーは、4t/10aの生産目標を達成するために、ほ場準備から収穫までの作業管理を説明し、地域農業育成室職員が疫病対策を指導した。 ○後日、産地戦略推進室職員が「農作物の害虫対策」として、定義や種類、代表的な害虫の生態について説明し、防除適期に薬剤散布することの重要性を指導した。 			
結果と今後	<ul style="list-style-type: none"> ○出席者からは、種芋の確保や施肥、マルチ張り、かん水等の質問があったので、希望者は令和5年産から、ほ場で作業をしながら継続的にアドバイザーから指導を受けられる体制を整えた。 ○就農初期農業者は害虫対策の基本知識を習得し、農薬の抵抗性、天敵と害虫の見分け方、忌避剤等について質問し、日頃の課題解決ができた。 			
				<p>左：職員による病害対策指導 右：農家アドバイザーによる、さといも栽培指導</p>



標 題	改良型複合柵によるサル被害軽減効果を検証		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和4年10月12日	場所	西条市丹原町	
指導対象	落葉果樹農家（2人）	連携機関	西条市・JAえひめ未来	
普及指導内容	<ul style="list-style-type: none"> ○同町寺尾集落をサルによる被害対策実践モデル集落として大型捕獲おりによる捕獲実証等を支援している。 ○今年度、挑戦的新技术等先行モデル実証事業を新たに活用し、落葉果樹（ぶどう）園地に改良型複合柵（既存複合柵の電気柵部分を改良）を設置。サルによる被害軽減効果の実証を開始した。 			
結果と今後	<ul style="list-style-type: none"> ○実証ほは、周辺農家への技術指導及び東予地域えひめ地域鳥獣管理専門員の研修場として活用し、対策技術の指導も実施することができた。 ○今後、センサーカメラを設置し被害軽減効果の検証を継続して行う。 ○得られたデータ等は、地域及び管理専門員に情報共有し、対策事例が少ないサル対策の技術指導資料として活用していく。 			
<p>【挑戦的新技术等先行モデル実証事業】 鳥獣管理専門員が既存の対策からもう一段階上の効果的・効率的な対策となりうる新技术等に取り組む事業</p>				
		改良型複合柵の設置を指導		設置した改良型複合柵

標 題	観光施設から「うま茶」を県内外へ発信		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和4年10月2日	場所	道の駅霧の森（四国中央市新宮町）	
指導対象	うま茶振興協議会（1人）	連携機関	四国中央市	
普及指導内容	<p>○うま茶およびブランド茶「結の霧ひめ」の認知度向上とファン層の拡大を図るため、同協議会が初めて開催する「結の霧ひめカレッジ」を支援した。</p> <p>○会では、日本茶インストラクターの資格を有する同施設職員が、うま茶の産地（新宮・富郷）の3銘柄とブランド茶の煎茶を飲み比べながら、各産地の特徴ある香りや味、製茶方法についてのプレゼンテーションを行い、当班が産地概要やブランド茶の特長を説明した。</p>			
結果と今後	<p>○当日は市内から親子や夫婦、家族連れ等9人が参加し、地域ごとに異なる味と香りに魅了された。今後、参加者がSNSへの投稿等を通じて、産地の情報発信やPRに寄与することが期待される。</p> <p>○観光施設や他産業との連携が、うま茶のPRと販路拡大の重要な要素であることから、今後も関係機関と連携しながらファン層の拡大に向けた様々な取組みを企画・提案していく。</p>			
<p>【結の霧ひめカレッジ】 四国中央市の茶（うま茶）の産地やブランド茶の魅力を県内外の観光客に向けて情報発信し、認知度向上や販路拡大を目指す協議会事業。今後も様々な講座を企画。</p>				<p>うま茶が幅広い年齢層を魅了</p> <p>地域で異なる味と香りに関心</p>

標 題	食農教育としてサツマイモの収穫体験を実施		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和4年10月20日	場所	協力農家ほ場 （四国中央市土居町蕪崎）	
指導対象	四国中央青年農業者連絡協議会（7人）	連携機関	なし	
普及指導内容	<p>○協議会員の意識や資質の向上を目的に、食農教育に関する活動を支援しており、今般、サツマイモ「紅はるか」の収穫体験を実施した。</p>			
結果と今後	<p>○当日は市立北保育園の園児30人が参加。農業体験を通じて食育の意義や大切さを伝えることで、参加した協議会員の意識醸成にもつながった。</p> <p>○5月に定植し収穫した芋は、11月に開催する市産業祭で焼き芋として販売する予定であったが、新型コロナの影響で販売は中止となったため、園児が収穫した芋は各々が持ち帰るほか、保育園の食事会等の行事で有効活用される。</p> <p>○幼児期から農業体験を付与することは食育上重要な意義があり、保育園側の要望も高いため、今後も協議会活動の軸として継続実施していく。</p>			
 <p>つるを除去するなど入念な下準備</p>		 <p>園児に掘り方を教え、食の大切を伝える</p>		


標 題	有害鳥獣を寄せ付けない地域づくりに向けた現地講習会の開催		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和4年10月17日、22日	場所	四国中央市土居町上野地区	
指導対象	同地区農業者（8人）	連携機関	四国中央市	
普及指導内容	<p>○有害鳥獣を寄せ付けない地域づくりに向け、同地区で最も被害が増加しているニホンザルについて、その追い払い技術の普及を目的とした現地講習会を開催した。</p> <p>○追い払いには自作した専用の器具を活用するが、一般的ながん具用花火を射出するため、使用上の注意点を周知徹底するとともに、県内外の優良事例を紹介しつつ、当地区内での運用方法を説明した。</p>			
結果と今後	<p>○当班が用意した追い払い専用器具を基に農業者らが新たに8基を作製し、同地区内で運用を開始。</p> <p>○既に追い払いを実践している農業者からは「使用した翌日よりサルを目撃数が減少しており、効果を実感できている」との声が上がった。</p> <p>○同地区では今年度中に大型捕獲おりの設置を予定しており、今後は追い払いと捕獲を効果的に組み合わせた鳥獣害対策の仕組み作りを指導していく。</p>			
				<p>左：使用方法と注意点を丁寧に解説 右：試し打ちで効果を実感（右）</p>



標 題	首都圏において3JA 合同で東予産花木を PR		機関名	東予地方局産地戦略推進室 今治支局産地戦略推進室
年月日	令和4年10月7日	場所	東京都（大田花き市場、中央花卉）	
指導対象	JA おちいまばり、JA 周桑、JA うま	連携機関		
普及指導内容	<p>○東予産花木を大都市圏で紹介するため、花き取扱量日本一の大田花き市場において、両室が企画した3JA 連携の初めての販促活動を実施。</p> <p>○大田花き市場では、早朝7時から始まるセリの前に、JA 販売担当者と生産者が主力品目「ビバーナム・ティナス」「メラレウカ」「ピットスポラム」の特徴や産地のこだわり等をアピール。</p> <p>○また、市場内にある中央花卉（仲卸業者）では、店頭販促ブースを設けて花木の販売とチラシ（QRコードを貼付した紹介動画及びアンケート）を配布。</p> <p>○この他、大田花き市場のショールームで花木を1週間（10/3～7）展示。</p>			
結果と今後	<p>○販促ブースでは、東予産花木の鮮度やボリューム感等の品質の良さを直接伝えることができた。その結果、完売した品種や用意したチラシ（100枚）もなくなり、花屋の関心の高さがうかがえた。</p> <p>○なお、11月には大田花き市場と中央花卉担当者が来県し、現地を視察する予定。</p>			
				<p>左：セリ前に東予産花木を PR 右：中央花卉販促ブース</p>



標 題	自家産米加工品の新たな販路を開拓		機関名	東予地方局産地戦略推進室
年月日	令和4年9月28日～10月8日	場所	石鎚山サービスエリア（上り線）	
指導対象	(株) SOU・KOU Factory	連携機関	6次産業化サポートセンター	
普及指導内容	<p>○自家産米加工品の販路拡大を志向する周桑地区の当法人に対し、これまで県や国事業の活用のほか、HP用動画の撮影、適正表示などの支援をしてきたところ。</p> <p>○今般、国事業により派遣されたプランナーとともに、米菓子（ぱん豆）の新たな販路拡大のため、原材料の一部を変更（てんさい糖を使用）し高級感を出した新商品の開発及びサービスエリア運営会社への営業を支援した。</p>			
結果と今後	<p>○10月8日からサービスエリアへの納品が開始され、10月末までに約130個が販売されるなど、販売は好調。</p> <p>○今後、米菓子の取り扱いのない店舗等に対して、プランナーとともに販路拡大を進めることとしている。</p>			
				<p>左：サービスエリア支配人への営業 右：サービスエリアでの陳列状況</p>

標 題	学校給食用「ひめの凩」の実証試験ほど収穫はじまる		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和4年10月13日	場所	今治市立花地区	
指導対象	「ひめの凩」生産者（1人）	連携機関	JA今治立花	
普及指導内容	<p>○令和4年産「ひめの凩」において、今治市の学校給食用に供給するための実証試験をJA今治立花と連携して実施しており、今般、実証生産者と協力して収穫を行った。</p> <p>○同市の学校給食用食材は、農薬・化学肥料をそれぞれ50%以上削減する必要がある、実証栽培では、プラスチック被覆肥料を用いず、特別栽培に適応した有機化成一発肥料を使用した。</p> <p>○実証ほの田植え日は6月10日、出穂期は8月29日。</p>			
結果と今後	<p>○本年産の生育は良好で病害虫の発生は軽微であったが、登熟期間の日照不足が品質に影響することが懸念されている。また、生産者からは「生育後期の葉色が薄く感じられる。肥料がやや不足したのではないか」との感想が寄せられた。</p> <p>○今後は実証データ（収量性、品質、食味）を検討して、次年度の栽培（施肥設計）に反映する。</p>			
				
<p>実証農家による「ひめの凩」収穫</p>				


標 題	菊間地区甘平部会栽培講習勉強会		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和4年10月31日	場所	JA おちいまばり菊間支店3階大ホール及び現地ほ場	
指導対象	菊間地区甘平部会員 (50人)	連携機関	JA おちいまばり	
普及指導内容	<p>○「甘平」の安定生産に向け、裂果対策をテーマとした講習会を開催した。</p> <p>○会では、摘果の徹底や年間を通じた土壌水分の保持等の取組みにより成果が見られた生産者が講演した後、当室から裂果対策に有効な早期摘果や水分管理等の方法を説明するとともに、今年度の実証内容（根域拡大、周年かん水）や昨年度の実証結果を報告した。</p> <p>○その後、現地ほ場に移動し、具体的なかん水方法等の栽培管理技術や土壌水分計の活用方法等を説明し、参加者との意見交換を行った。</p>			
結果と今後	○会では、生産者から裂果対策の取組みに対する積極的な意見が多く出され、関心の高さがうかがえたことから、今後も JA 等と連携し実証試験や栽培管理の指導を通して安定生産に努める。			
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>裂果対策及び実証試験結果の報告</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>現地ほ場の視察</p> </div> </div>				

標 題	海洋汚染防止対策とコスト低減を目指した施肥基準づくり始まる		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和4年9月28日	場所	今治市	
指導対象	はだか麦、さといも生産者	連携機関	JA おちいまばり、全農えひめ	
普及指導内容	<p>○海洋汚染につながるプラスチック被覆肥料の使用低減及び肥料価格高騰への対策として、JA おちいまばり、全農えひめと連携して、新しい施肥基準づくりを目指した実証ほを設置することとした。</p> <p>○対象品目は令和5年産はだか麦とさといもで、鶏糞ペレットや石灰窒素を新たに用い、プラスチック被覆肥料使用ゼロ及び肥料コストで、はだか麦45%、さといも30%の低減を目指す。</p>			
結果と今後	<p>○今後、土壌分析や生育調査を行い、結果をとりまとめ、令和6年産の施肥基準を検討する。</p> <p>○また、さといも栽培後の土壌に残っている肥料成分が「ひめの凜」の生育・品質へ及ぼす影響についても調査する。</p>			
 <p>実証ほ場の土壌採取</p>				



標 題	集落ぐるみの鳥獣害対策に向けて		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和4年10月20日	場所	今治市菊間町松尾	
指導対象	松尾集落代表及び地元猟友会員 (7人)	連携 機関	JA おちいまばり	
普及指導 内容	<p>○「鳥獣害防止対策強調月間」の取組みとして、えひめ地域鳥獣管理専門員と連携し、同集落を対象に鳥獣被害対策の意識を高める集落見回りを実施した。</p> <p>○当日は、集落代表や地元猟友会に加え、えひめ地域鳥獣管理専門員1人、同室職員2人が同行。被害状況や侵入防止柵等の設置状況を確認するとともに、サルの出没が予想される4カ所にセンサーカメラを設置し、加害獣の出没状況を確認した。</p>			
結果と今後	<p>○集落代表者は「今後、被害拡大が懸念されるサル対策に向け、侵入防止対策と捕獲を早め実施することが必要」と認識し、被害対策に前向きに取り組むこととなった。</p> <p>○今後、同集落をサル被害に「集落ぐるみ」で取り組む新規モデル集落とし、地域体づくりや効果的な被害防止対策に向け重点指導を推進する。</p>			
				
	センサーカメラ設置に向けサル目撃地を地図上にポイント		現地ほ場で複合柵設置の留意点を指導する鳥獣管理専門員	




標 題	鳥獣害対策集落見回り活動を実施		機関名	今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班
年月日	令和4年10月31日	場所	今治市宮窪町友浦地区	
指導対象	同地区農業者(4人) 猟友会員(4人)	連携 機関	今治市、JA おちいまばり	
普及指導 内容	<p>○10月の「鳥獣害防止対策強調月間」に合わせ、同地区農業者や猟友会員、市、JAと連携して、集落見回り活動を実施した。</p> <p>○見回り活動には関係者を含め13人が参加し、集落の防護柵の設置状況やイノシシの侵入路の確認、今後の捕獲計画の検討などを行った。</p> <p>○また、9月に実施した、同地区のかんきつ栽培者対象のアンケート結果の報告や、意見交換を行った。</p>			
結果と今後	<p>○防護柵設置に関する技術的な問題点が認識され、今後の柵の改修方法や助成金の申請などについて理解が深まった。</p> <p>○具体的な捕獲場所や方法について協議し、捕獲の推進につながった。</p> <p>○同地区の課題について意見交換する中で、年明けに多発するヒヨドリ被害への対応が必要との意見があったため、今後、鳥害対策を検討することとした。</p>			
				
	防護柵の設置状況を確認		集落の課題について意見交換	

標 題	しまなみ食材の販売促進に関する協議		機関名	今治支局産地戦略推進室
年月日	令和4年10月18日	場所	DAISHIN (今治市大三島町宮浦)	
指導対象	しまなみ農業活性化協議会員 (11人)	連携 機関	今治市、今治市観光協会 せとうちみなとマルシェ実行委員	
普及指導 内容	<p>○令和4年11月13日から開催される「せとうちみなとマルシェ」に向けて、特徴ある農産物を生産加工する農家や加工事業者等で構成される協議会を開催し、地域の農業や食文化をPRする認定制度の創設ならびに販売イベントへの共同出店等について協議した。</p> <p>○本会は局予算事業「しまなみ地域の魅力ある農業産地化事業」の一環として開催したもので、オリーブ、醸造用ぶどう農家や有機農業グループ、ジビエ肉の加工販売事業者、レモン加工販売事業者、花き販売店等が参加した。</p>			
結果と今後	<p>○農産加工品認定制度「しまなみみんなのディッシュ」(仮称)は、地元農家や加工事業者等で組織する実行委員会が農産加工品等を認定し、購買者等がその商品进行评估するもので、市や観光協会等の協力を得て今年度中に創設される。</p> <p>○今後、通年で開催される「せとうちみなとマルシェ」に共同出店するとともに、タオル美術館やグループ内の集客施設等に常設販売ブースを設置する。</p>			
				
協議会員による協議				出店商品の試食


標 題	中予地域いちごセミナーを開催		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和4年10月20日	場所	花き研究指導室、東温市実証ほ場	
指導対象	いちご生産者等 (32人)	連携 機関	JA松山市、JAえひめ中央、農林水産 研究所	
普及指導 内容	<p>○いちご産地の生産振興を図るため、天敵利用技術や炭酸ガス日中施用による増収効果等の事例を紹介するいちごセミナーを開催した。</p> <p>○当日は、室内研修後、当室が設置している高収益モデル実証ほへ移動し、ハウス内環境測定装置や細霧冷房の状況を確認した。</p>			
結果と今後	<p>○参加者からは、天敵導入の効果や炭酸ガスの施用方法等について多数の質疑があり、関心の高さがうかがえた。</p> <p>○今後は、天敵の導入手順支援や、炭酸ガス日中施用方法等について現地指導を行い生産者の所得向上を目指す。</p>			
				
		<p>左：室内研修 右：高収益モデル園での現地研修</p>		


標 題	かんきつ園地における石積み技術講習会を開催		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和4年10月20日	場所	松山市農協興居島支所ほか	
指導対象	松山市青年農業者連絡協議会員 (19人)	連携 機関	松山市青年農業者連絡協議会、一般 社団法人石積み学校、松山市	
普及指導 内容	<p>○松山市の島しょ部を中心とする急傾斜地のかんきつ園地では、石を使って段畑を造成する「石積み」の技法がよく使われている。</p> <p>○近年、大雨で樹園地が崩落する等の被害が多発しており、「石積み」の損壊も頻繁に起こっているため、松山市内の青年農業者を対象に、社団法人石積み学校の協力を得て「石積み」の室内研修と実技講習を実施した。</p>			
結果と今後	<p>○参加した青年農業者は、熱心に質問を行うなど、「石積み」の技術習得に対する意欲がうかがえた。</p> <p>○「石積み」の修繕方法を習得したことで、青年農業者が自らの手で災害園地を復旧・整備する技術が身についた。</p> <p>○今後も青年農業者の組織活動を活用し、多岐にわたる技術習得を支援することでレベルの高い生産者としての育成を目指す。</p>			
				<p>左：石積みの室内研修 右：実技講習</p>



標 題	女性目線で農業用追従ロボットの有用性を検討		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和4年10月5日、6日	場所	興居島・中島（松山市）	
指導対象	かんきつ農家（37人、うち女性19人）	連携 機関	農研機構	
普及指導 内容	<p>○かんきつ栽培における農業用追従ロボットの有用性の可能性と課題を確認するため、開発者である農研機構と連携し、現地検討会を開催した。</p> <p>○検討会では、女性農業者の視点で有用性を検討するため、島しょ部の農業女子会会員を中心に参加を呼びかけ、2日間の日程で興居島と中島の各2園地で収穫物の運搬や除草剤散布作業での活用体験等を実施した。</p>			
結果と今後	<p>○傾斜度15～20度の追従走行が可能であることや、整備された園地では自動走行も可能であることが確認できたが、路面や積載物の状況によっては走行が不安定となるという課題も明らかとなった。</p> <p>○参加者は、使いやすさに魅力を感じ、活用に前向きな検討が行われた。</p> <p>○今回の実施結果や体験後のアンケート調査をもとに、農研機構と連携しながら本県の傾斜園地での有用化を目指してロボットの改良を検討するなど技術の普及を推進する。</p>			
				<p>左：興居島での現地検討 右：中島での現地検討</p>



標 題	興居島で女性農業経営者育成に向けた研修会を開催		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和4年10月25日	場所	興居島（松山市）	
指導対象	農業女子グループ「しとらす」メンバー（8人）	連携機関		
普及指導内容	<p>○地域のリーダーとなり得る女性農業経営者育成のため、研修会を実施し、かんきつ農家が倉庫に設置しているコンテナ移動装置を見学した。</p> <p>○また、季節の花を使った寄せ植えを行いながら、経営上の悩みや新規メンバーの確保方法等を話し合った。</p>			
結果と今後	<p>○装置見学では、実際に操作して女性にも簡単に扱えたことから、「作業の省力化については早速取り組みたい」との声が上がった。</p> <p>○新規メンバーの確保についても意欲的な姿勢が確認でき、会員らの意識醸成につながった。</p> <p>○今後は、農繁期を避けつつ、SNS等活用しながらグループ間の情報交換を行い、農業経営研修等を実施する予定。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>省力化について学ぶ</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>寄せ植えをしながらの交流</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>しとらすメンバー</p> </div> </div>				



標 題	スマート農業の現地実演会を開催		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和4年10月24日	場所	伊予市中山町内キウイフルーツ園	
指導対象	キウイフルーツ生産者（25人） 伊予地区農業改良普及事業推進協議会（15人）	連携機関	県農林水産研究所	
普及指導内容	<p>○大規模経営者や高齢者に対するスマート農業の推進を目的に、ラジコン式防除機と草刈機の実演会及び機械操作体験を実施した。</p>			
結果と今後	<p>○ラジコン防除機は人体への薬剤被ばくが無いため安全性が高いことが参加者に周知できた。</p> <p>○ラジコン草刈機は操作も簡単で、刈払機では3日程度要する作業量を半日程度で終わることが可能であることが確認できたことから、省力化や労力の軽減につながる事が参加者に周知できた。</p> <p>○高い導入コストや共同利用の方法等の課題もあるが、農家のスマート農業への意識醸成には、効果的な研修会となった。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;">  </div> </div> <p style="text-align: right; margin-top: 10px;">左：ラジコン防除機 右：ラジコン草刈機</p>				



標 題	伊予市で農福連携マッチング！		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和4年10月13日、26日	場所	福岡農園ほ場	
指導対象	伊予市認定農業者福岡農園（5人） 就労継続支援B型事業所（7人）	連携 機関	伊予市	
普及指導 内容	<p>○農福連携を推進するため、認定農業者で農業委員でもある福岡大樹氏と市内事業所間の農作業マッチング会を実施した。</p> <p>○事業所の利用者は、ローゼル（ハイビスカス）の収穫・調整作業や稲木干し作業、麦畑の敷きワラ作業を体験した。</p>			
結果と今後	<p>○福岡氏と事業所は、11月から月2回の作業委託契約を結び、タマネギの除草作業や野菜等の収穫作業を実施していく予定となった。</p> <p>○今後も委託可能な作業をリストアップしながら、年間を通じた作業委託を検討していく。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>ローゼルの収穫体験</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>マッチングに向けた検討</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>麦は種後の敷きワラ作業</p> </div> </div>				


標 題	青年農業者が農業簿記研修		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和4年10月19日	場所	伊予市農業振興センター	
指導対象	伊予地区青年農業者連絡協議会 （5人） 管内新規就農希望者（3人）	連携 機関	えひめ農業経営サポートセンター 愛媛県農業共済組合	
普及指導 内容	<p>○青年農業者等の経営管理能力の向上を目的に、税理士（令和4年度農業経営総合支援事業専門家）を講師に、①農業簿記の間違えやすい仕訳、②インボイス制度の農業者への影響、③近年の税制改正の動き、④農業収入保険制度等について研修を実施した。</p> <p>○研修後、青年農業者連絡協議会員が自らの実証展示活動の状況報告を行い、管内での新規就農希望者（JA研修生）との交流を図った。</p>			
結果と今後	<p>○参加者の簿記記帳能力や経営分析力が向上し、早期の経営安定につながることを期待される。</p> <p>○今後も、必要性の高い技術研修や協議会員と新規就農者の交流を図り、スムーズな就農及び地域定着を推進する。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: right;"> <p>えひめ農業経営サポートセンター コンサルタントによる研修</p> </div> </div>				

標 題	青年農業者が鳥獣被害の多い集落の見回り実施		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和4年10月5日	場所	伊予市大平地区	
指導対象	青年農業者（5人）	連携機関	伊予市	
普及指導内容	<p>○野生鳥獣の被害防止に向けた意識啓発を図るため、青年農業者と猟友会支部長が、鳥獣の出没が多発する伊予市大平地区のキウイフルーツ園と周辺の見回り点検活動を実施した。</p> <p>○トレイルカメラの映像をもとに、獣の侵入経路や生息場所、獣道を確認後、電気柵の電圧の測定や箱罠とくくり罠の仕掛け方の研修を行った。</p>			
結果と今後	<p>○真新しい獣道やぬた場を確認し、防除柵や捕獲等、対策の必要性について周知できた。</p> <p>○箱罠周辺のカメラ映像に、イノシシの幼獣が柵の損壊部から脱出する様子が映っており、修理をして仕掛けなおすことにした。</p> <p>○参加者が、今年度中に狩猟免許の取得を目指すことになった。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: right;">左：箱罠の仕掛けの説明 右：くくり罠の実演</p>				



標 題	農福連携に係るピーマン収穫作業のジョブコーチを実施		機関名	中予地方局地域農業育成室 久万高原農業指導班
年月日	令和4年10月13日	場所	久万高原農業指導班実証ほ場	
指導対象	町内障がい者施設利用者	連携機関	久万高原町、JA 松山市	
普及指導内容	<p>○ピーマン収穫作業の労力補完対策や農福連携による障がい者の就労促進を目的としてジョブコーチを実施し、ピーマンの収穫方法を指導した。</p>			
結果と今後	<p>○参加者は、初めてのピーマン収穫作業で戸惑いもあったが、教えられた収穫方法に沿って作業し、収穫技術の習得を図った。</p> <p>○今後も引続きジョブコーチを実施し、障がい者の就労促進を支援する。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: right;">左：収穫方法の説明 右：収穫作業の体験</p>				



標 題	青年農業者組織が地域イベントで雑穀を PR		機関名	中予地方局地域農業育成室 久万高原農業指導班
年月日	令和4年10月15日、16日	場所	B&G 海洋センター（久万高原町）	
指導対象	久万高原町青年農業者連絡協議会 員、新規就農者、農業研修生 (15人)	連携 機関	久万高原町	
普及指導 内容	○久万高原町のイベント「林業まつり」において、青年農業者等による地域食材である雑穀（こきび）の PR 活動（来場者への「こきびもち」の提供）を支援した。			
結果と今後	○「こきびもち」は多くの来場者から好評を博し、地域食材である雑穀の周知につながった。 ○青年農業者組織活動を地域へ PR するとともに、新規就農者や農業研修生も活動に参加したことで、彼らの久万高原町への定着促進を図ることができた。 ○今後も雑穀による地域の魅力向上と、青年農業者組織活動の活性化のための活動支援に取り組む。			
 				
指導班で試作したこきび			もちつきによる PR 活動	



標 題	久万高原町秋の収穫祭、雑穀料理でおもてなし		機関名	中予地方局地域農業育成室 久万高原農業指導班
年月日	令和4年10月25日	場所	久万高原町農業公園アグリピア	
指導対象	久万高原町生活研究協議会(6人)	連携 機関	久万高原町	
普及指導 内容	○アグリピアで開催された「秋の収穫祭」において、来場者に「雑穀の魅力」を周知するため、久万高原町生活研究協議会(会長渡部榮子氏)を指導し、町内産雑穀を使ったおもてなし料理の提供を実施した。			
結果と今後	○当日準備した120食分の「たかきびの団子汁」と「雑穀おこわ」は、瞬く間に食され、来場者からは「初めて食べたがとても美味しい」等の感想が多く寄せられた。 ○雑穀(こきび)の餅つき体験も実施し、好評を博した。 ○今後、雑穀を使った既存の郷土料理に加え、若年層を意識した新たな加工品等の開発を支援する。			
  				
雑穀料理に並ぶ参加者		たかきびの団子		郷土料理の準備



標 題	第2回久万高原ブランドづくり推進会議の開催		機関名	中予地方局地域農業育成室 久万高原農業指導班
年月日	令和4年10月25日	場所	JA松山市久万経済センター	
指導対象	雑穀生産者及び久万高原生活研究協議会代表（2人）	連携機関	久万高原町、JA松山市	
普及指導内容	○雑穀の生産振興、新たな需要の創造や伝統ある雑穀料理の伝承に向けて取り組んでいる局予算事業「久万高原地域食材伝承事業」の現在までの進捗状況の報告（現地展示は2カ所設置、新たに雑穀生産者が4人となった）と、今後の活動方針について協議した。			
結果と今後	○雑穀料理専門家のアドバイザーから、「県内で高原と呼ばれる地域は当地だけであり、地域の特産と『たかきび』を組み合わせたオリジナルの高原メニュー開発に努めるべき」「商品開発後は、雑穀の持つ機能性をリーフレットとして掲示するべき」とのアドバイスがあった。 ○今後は、収穫した雑穀（たかきび）を使用した代替肉の開発、雑穀類（地とうきび、たかきび、こきび）を使用した郷土料理（はなこねり、たかきびの団子汁、雑穀餅）の調理動画の撮影とYouTube等のネット配信に向けた活動支援に取り組む。			
				
関係者で雑穀の推進方策について協議				


標 題	「市田柿」の生産拡大に向け地域で共同作業		機関名	南予地方局地域農業育成室
年月日	令和4年10月19日	場所	宇和島市三間町	
指導対象	かき生産者	連携機関	JAえひめ南	
普及指導内容	○高級菓子用果実の産地化を進めている中で、生産者の高齢化により管理が不十分となった園地を再生し生産拡大につなげるため、JAえひめ南と連携し、近隣農家による共同作業を支援している。 ○今年度、せん定や摘果、防除等の作業を技術指導した2か所の園地から、約500kg（前年比：約3倍）の「市田柿」の生産につながった。			
結果と今後	○管内には、このほかにも管理不足で収穫に至っていない園地があることから、新たな栽培者の掘り起こしを行うとともに、作業支援が可能な農家に12月のせん定講習会への参加を呼び掛け、生産拡大に向けた取組みを行うこととしている。			
				
左：共同作業による収穫 右：収穫された「市田柿」				


標 題	広見川流域の農業濁水軽減米を試験販売へ		機関名	南予地方局地域農業育成室
年月日	令和4年10月11日	場所	宇和島市、鬼北町、松野町	
指導対象	水稻農家	連携機関	JA えひめ南	
普及指導内容	<p>○広見川農業用排水対策協議会（県、関係市町、JA等）では、四万十川の源流である広見川流域水田における濁水軽減対策の一環として、当室が中心となり、代かき前の石こう資材の施用による濁水軽減実証に取り組んでおり、これまでに高い効果を確認している。</p> <p>○このような環境に配慮した米づくりを多くの人に知ってもらうことで継続的な取組みにつなげるため、濁水軽減米の販売を計画し、今般、消費者志向の把握を目的とした試験販売に向けて、関係者間で協議した。</p>			
結果と今後	○11月中旬以降、道の駅やスーパー等で1,400kgを試験販売することとなり、今後は米袋のデザイン等、関係者と連携して詳細を詰めていく。			
				
			<p>左：石こう投入効果（中央）</p> <p>右：販売用袋のイメージ</p>	



標 題	集落に合った営農体系を学ぶため先進地を視察		機関名	南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班
年月日	令和4年10月13日	場所	西予市宇和町、宇和島市三間町	
指導対象	松野町富岡集落協定関係者（13人）	連携機関	松野町	
普及指導内容	<p>○法人化を目指している松野町富岡集落に適した営農体系を検討するため、農業者組織の先進事例研修を実施した。</p> <p>○西予市宇和町では、若手農業者の活躍事例として「(株) 田力本願」の井上氏から米のブランド化や、大豆・小麦等の栽培について話を聞くとともに、現地ほ場を視察。</p> <p>○宇和島市三間では、「農事組合法人はざめ」前代表理事の土居氏から、法人設立の経緯や集落の営農体系について話を聞くとともに、農業機械や保管庫導入に向けた事業の活用方法等について意見交換を行った。</p>			
結果と今後	○今回の視察を機に、同集落では新規品目として小麦の試験栽培に取り組むことになったことから、当班では技術面の情報提供や収穫物の活用方法等について指導助言を行い、集落に合った営農体系の確立を支援する。			
				
			<p>左：西予市の若手農業者による活動事例紹介</p> <p>右：宇和島市の集落営農組織による取組説明</p>	

標 題	大規模くり園に草生植物を高密度は種		機関名	南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班
年月日	令和4年10月20日	場所	鬼北町泉	
指導対象	大規模くり生産者（1人）	連携機関	鬼北地域果樹農業活性化促進協議会	
普及指導内容	<p>○小規模なくり園が多い鬼北地域における大規模経営モデルとして 令和元年に開設したくり園の早期成園化と省力化を目指している。</p> <p>○急斜面での草刈り作業は危険かつ困難であることから、草生栽培による抑草を試みているが、雨による種子の流亡や山林開墾地特有の雑木類（アカメガシワ、タラノキ等）の発生により定着が困難なところも見られている。</p> <p>○このため、今回、ドローンを用いて園地上部へのイタリアンライグラスの種子 10kg の高密度は種（通常 3～4 kg/10 a）を実施した。</p>			
結果と今後	○今後、適正な施肥指導等を通じて草生植物の定着を図るとともに、くりの栽培指導を継続し、来年から収穫開始となるモデル園の早期成園化を目指す。			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div> <p style="text-align: right; margin-right: 50px;">左：ドローンによるは種 右：通常の3倍量の高密度は種</p>				



標 題	就農研修生を優良かんきつ園地に案内		機関名	南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班
年月日	令和4年10月21日	場所	南宇和郡愛南町緑、御荘菊川	
指導対象	就農研修生（3人）	連携機関	JA えひめ南	
普及指導内容	○JA えひめ南の研修施設で就農を目指している研修生らの資質向上を目的に、管内の優良かんきつ園地を案内し、当班が技術実証を行っている密植園解消の取組みを説明した。			
結果と今後	<p>○間伐を行い、独立樹となった園地では、作業性や果実品質の向上とともに収量も増加したという園主の話が研修生の印象に強く残った様子。</p> <p>○また、栽培へのこだわりなど、研修生から多くの質問が出され、優良園地の視察を通じて先輩農家とのつながりもできるなど、有意義な研修となった。</p> <p>○今回初めて企画した研修が好評だったため、今後、定期的な開催を検討しており、次回は要望に基づき同研修センター卒業生の園地視察を計画している。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div> <p style="text-align: right; margin-right: 50px;">左：園主の説明を聞く研修生 右：園内を視察する研修生</p>				

標 題	青年農業者にドローン防除の園地視察を実施	機関名	南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班
年月日	令和4年10月31日	場所	宇和島市吉田町喜佐方
指導対象	青年農業者（4人）	連携 機関	JA えひめ南
普及指導 内容	○ドローン防除に先進的に取り組む園地の視察研修を実施し、園主から浸透移行性がある薬剤ではドローン防除が有効との説明を受けた。		
結果と今後	○参加者からは「短時間で散布でき、防除作業が省力化できることは魅力的」「樹高が高い園地や密植園地では、縮間伐やドローン防除に適したせん定方法を行うことで、さらに効果が期待できるのでは」といった前向きな意見が聞かれた。 ○今後、青年農業者協議会によるドローン防除の実演会を企画するとともに、今回、参加できなかった青年農業者には研修会等を通じて情報共有を図る。		
		<p>左：園主の説明を聞く青年農業者 右：園地を視察する青年農業者</p>	




標 題	低樹高化によるゆずの作業性改善	機関名	南予地方局産地戦略推進室
年月日	令和4年10月4日	場所	鬼北町
指導対象	ゆず生産者	連携 機関	
普及指導 内容	○管内ゆず園地において、作業性改善に向けた低樹高化試験ほ場を設置した。 ○若手生産者が管理する同園地は、親から継承した時点で4m程の樹高があり、受光環境の悪化や収穫時の高所作業事故が危惧されていたことから、生育環境の改善と作業効率の向上を目的として、主枝選抜と誘引作業を実施した。		
結果と今後	○強めの誘引作業により、樹高が最大4割程度低くなったことで収穫・せん定の作業性の向上が期待できる。あわせて、樹冠内部の受光環境の改善による新梢発生を促し、樹の若返りを狙う。 ○11月には収穫時の作業時間や安全性についての調査を予定している。		
		<p>左：間伐した株方向へ誘引 右：誘引後の樹形（中心部の直立枝はせん定時に切り下げ）</p>	



標 題	管内農業者の GLOBAL G. A. P. 認証に向けた内部検査の実施		機関名	八幡浜支局地域農業育成室
年月日	令和4年10月7日、27日	場所	八幡浜市各地	
指導対象	GLOBAL G. A. P. 取得者（法人1社、農業者1人）	連携機関		
普及指導内容	<p>○管内の GLOBAL G. A. P. 認証取得者のうち2戸（温州みかん）は、当室が中心となって指導を行っている。</p> <p>○今年度の GLOBAL G. A. P. 認証取得に向け、書類や園地、施設等の確認等、内部検査を行った。</p>			
結果と今後	<p>○内部検査では、大きな指摘事項はなかったが、いくつかの不適合内容もあったため、是正するよう指導を行った。</p> <p>○また、今回の結果を踏まえて、法人は11月、農業者は1月に認証審査を受ける予定で、今後、水質検査や作物残留農薬分析の実施を支援する。</p>			
<p>【GLOBAL G. A. P.】 国際的に認められた農業における持続可能性を確保するための生産工程管理の取組。G. A. P. とは Good Agricultural Practice の略</p>				
		書類の確認	農薬保管庫の確認	

標 題	マルドリ栽培による園地管理と傾斜園地の基盤整備事例を学ぶ		機関名	八幡浜支局地域農業育成室
年月日	令和4年10月11日	場所	山口県周防大島町	
指導対象	柑橘集落営農組織支援協議会員及び農事組合法人（8人）	連携機関	JAにしうわ、伊方町、八幡浜市、西予市	
普及指導内容	<p>○局予算事業「西宇和地域柑橘集落営農組織支援事業」の一環として、管内での将来の効率的な園地管理に活かすことを目的に、園地条件が似た山口県周防大島町の傾斜園での基盤整備事業の導入と通信型マルドリを利用した園地管理方法を学ぶ視察研修を実施した。</p> <p>○同県柑きつ振興センターでは、開発した通信型マルドリの活用事例、久賀地区では、現地にて基盤整備の概要、地権者との合意形成等、事業の推進方法について、県、町、生産者から説明を受けた。</p>			
結果と今後	<p>○通信型マルドリは、導入費用が高価であることや、故障時に専門家でないと対応できない等の課題はあるが、園地ごとに施肥量や濃度調整が可能であることから、多品目を栽培している当地区での有効性について理解を深めた。</p> <p>○基盤整備については、園地面積を確保し、畦畔の面積を少なくできる工法があることや、未収益期間の収入面の問題がないエリアでは合意形成を進めやすいことが確認できた。</p> <p>○当室では、本事例を効率的な管理事例として、管内における基盤整備の検討に活かしていく考え。</p>			
				
通信型マルドリ		基盤整備状況の説明	園地整備時の状況	



標 題	首都圏の小学生にかんきつ出前授業を実施		機関名	八幡浜支局地域農業育成室
年月日	令和4年10月20日	場所	小平市立小平第三小学校 小平市立小平第十二小学校	
指導対象	八西地区青年農業者連絡協議会員 (2人)	連携 機関	八幡浜市、伊方町、県東京事務所	
普及指導 内容	<p>○かんきつ生産への理解や西宇和産地をPRするため、3年ぶりに首都圏小学校2校で出前授業を開催した。</p> <p>○授業では、昨年制作したかんきつ栽培DVDの視聴やみかんの収穫体験、質問コーナー等を実施。収穫体験では、現場のリアル感を演出するため、果実付きの枝を用い、収穫はさみの使い方や二度切りの仕方等、効果的な内容とした。</p>			
結果と今後	<p>○小学生からは「なぜ小さいみかんの方がおいしいのか」「一番大変な作業は何か」等の熱心な質問に対し、協議会員がわかりやすく回答し、みかん生産の理解が深まった。</p> <p>○また、出前授業を通して青年農業者自身の生産意欲の向上や西宇和みかんのPRを行うことが出来た。</p> <p>○次回の首都圏への出前講座（中晩かん）は、1月下旬頃を予定している。</p>			
				<p>左:二度切りの説明 右:生徒との収穫体験</p>



標 題	スマート農業 AI 選果機、精度向上を目指した実証始まる		機関名	八幡浜支局地域農業育成室
年月日	令和4年10月20日～	場所	愛媛スマート農業推進センター	
指導対象	西宇和スマート農業推進協議会	連携 機関	JAにしうわ、(株)NPシステム開発、県農林水産研究所	
普及指導 内容	<p>○AI 選果機の課題である浮皮や生傷の判別精度の向上を図るため、今年産の選果実証を開始した。</p> <p>○今年度は、より多くの果実を選果しデータを蓄積するため、JAにしうわの研修農場の収穫果実を全量選果する。</p> <p>○関係者で極早生の精品の選果基準を設定した後、コンテナ約150ケースの選果を行い、JA選果場に出荷した。</p>			
結果と今後	<p>○今後は、JAの選果伝票を確認しながらAI選果機の有効性を確認する。</p> <p>○11月10日頃からは、早生の選果実証を行う計画である。</p>			
				
AI 選果機による選果精度の確認				

標 題	鳥獣害防止対策に向けた見回り活動等を実施		機関名	八幡浜支局地域農業育成室
年月日	令和4年10月12日～21日、28日	場所	伊方町三崎地区	
指導対象	重点集落農家（3人）	連携機関	JAにしうわ、伊方町地域おこし協力隊（鳥獣管理専門員）	
普及指導内容	<p>○鳥獣害防止対策強化月間の一環として、防護柵の点検、箱わなの設置状況の確認を行った。特に、防護柵を設置しているがイノシシの出没痕が見られる園地において、侵入箇所の探索を重点的に実施し、対策方法を検討した。</p> <p>○また、10月12日～21日の間、八幡浜支局1階ロビーで鳥獣害被害状況・対策に関するパネルを展示し、県民への理解を深めた。</p>			
結果と今後	<p>○防護柵へのわずかな土の付着や湾曲から、イノシシの侵入が疑われる場所を見つけ、地際部分の強化や防護柵の上部を園地外に折り返す対策を行うこととした。</p> <p>○農家からは、「1人では気が付かない点もあるが、多くの人と見回りを行うことで問題点を発見することができた」との声があった。</p> <p>○シカの被害は見られなかったものの、その目撃範囲は年々広がっており、対策を講じることが急務であることを申し合わせた。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>新設した防護柵の点検</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>侵入が疑われる箇所の対策検討</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>支局ロビーでのパネル展示</p> </div> </div>				

標 題	青年農業者が地元企業と商品開発を模索		機関名	八幡浜地域農業育成室 大洲農業指導班
年月日	令和4年10月10日	場所	たいき産直市「愛たい菜」	
指導対象	大洲市青年農業者協議会員（10人）	連携機関	大洲市、JA愛媛たいき、仙味エキス（株）	
普及指導内容	<p>○「大洲産業フェスタ」で、会員が生産したさといもを利用した唐揚げの調理・販売や情報誌配布等の指導を通じ、協議会の別称「アグルビト」の認知度向上を図るとともに、協議会活動を積極的にPRした。</p> <p>○また、地元企業「仙味エキス（株）」と連携して、規格外しいたけや摘果果実、余剰しょうがなど廃棄される地元食材の有効活用による商品開発を実施。クラフトコーラを試作し、その試飲とアンケートをあわせて行った。</p>			
結果と今後	<p>○来場者に対し、協議会の活動や別称「アグルビト」を積極的にPRできた。</p> <p>○アンケートでは、地元食材の商品化に興味を示す結果が多かったことから、大洲ならではの商品化実現に向け、企業・関係機関と連携し、協議会としての商品開発と販売を支援していく。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>左：会員の生産物販売 （マルシェ形式で販売）</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>右：試作したクラフトコーラ</p> </div> </div>				

標 題	高校生が大野ヶ原にんにくの植え付け体験で生産者と交流		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班
年月日	令和4年10月17日	場所	西予市立大野ヶ原小学校及び生産者ほ場	
指導対象	県立野村高校生（13人）、大野ヶ原にんにく組合員（2人）	連携機関	西予市、（株）祐	
普及指導内容	<p>○大野ヶ原にんにくの産地化推進の一環として、6月の収穫体験に続き2回目の交流会を開催。地元高校生が植え付け作業を体験した。</p> <p>○本会は、「えひめ未来チャレンジ支援事業」を活用し、将来の担い手として期待される高校生に、にんにく栽培の体験や加工品開発を通して、にんにく栽培への理解を深めるため実施した。</p>			
結果と今後	<p>○アンケートでは、多くの生徒が今年度2回の交流会を通じて、にんにくに対する理解を深められたと回答しており、大野ヶ原における農業の魅力発信につながった。</p> <p>○引き続き関係機関と連携し、生産・加工・販売における具体的な取組みを支援し、産地化を目指す。</p>			
 		<p>左：植え付け方法を生産者がレクチャー 右：植え付け作業体験</p>		

標 題	フィンガーライムの産地化検討会を開催		機関名	八幡浜支局産地戦略推進室
年月日	令和4年10月4日	場所	鬼北町	
指導対象	フィンガーライム産地化推進協議会（11人）	連携機関		
普及指導内容	<p>○フィンガーライムの単収増につながる栽培技術のポイントを確認するため、産地化検討会を開催。</p> <p>○他の協議会員よりも1年早く栽培を開始したほ場で、品種別のせん定方法や収穫基準の目合わせを行うとともに、出荷販売計画や加工品の開発状況、他産地情報などを共有した。</p>			
結果と今後	<p>○参加者からは、「来年の木をイメージすることができた」「安定して生産ができることが分かり栽培意欲が高まった」などの意見が聞かれた。</p> <p>○今後も関係機関と連携し、当協議会活動を支援するとともに、フィンガーライムの産地化に向けて栽培指導に取り組む。</p>			
 		<p>左：現地で情報交換をする生産者 右：他産地情報について説明</p>		

標 題	『ひめの凜』金賞プロジェクト」収量、品質調査を実施		機関名	農産園芸課 高度普及推進グループ
年月日	令和4年10月3日、20日、31日	場所	松山市、東温市、鬼北町	
指導対象	ひめの凜生産者（3人）	連携機関	—	
普及指導内容	<p>○良食味栽培技術の確立、全国規模の食味コンクールでの入賞を目的としている『ひめの凜』金賞プロジェクト」に取り組んだ実証ほの収量、品質等の調査を実施した。</p> <p>○実証ほは昨年と同様に松山市、東温市、鬼北町の県下3カ所に設置し、これまでに適宜生育状況や根の状態を調査してきた。</p>			
結果と今後	<p>○コンクールの一次審査突破の目安となる食味スコア85以上を3実証ほ全てで達成し、最もスコアの高い区は食味スコアが88となった。</p> <p>○今後は、調製した米をコンクールに出品するとともに、土づくり資材や施肥管理、根の状態等を基に高スコアの要因を分析し、作物調査研究会を通じて作物担当普及指導員や研究員と共有する。</p>			
				<p>左：収穫期の実証ほ（松山市）</p> <p>右：収量調査（脱穀）</p>

■■■ 情報の問合せ先一覧表 ■■■

機関名	所在地および連絡先
東予地方局農林水産振興部 農業振興課	西条市丹原町池田 1611 TEL:0898-68-7322 FAX:0898-68-3056
東予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 四国中央農業指導班	四国中央市中之庄町 1684-4 TEL:0896-23-2394 FAX:0896-24-3697
東予地方局農林水産振興部 今治支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	今治市旭町 1-4-9 TEL:0898-23-2570 FAX:0898-22-9724
東予地方局農林水産振興部 今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班	今治市伯方町木浦甲 4637-3 TEL:0897-72-2325 FAX:0897-72-1912
中予地方局農林水産振興部 農業振興課	松山市北持田町 132 TEL:089-909-8762 FAX:089-909-8395
中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 久万高原農業指導班	上浮穴郡久万高原町入野 263 TEL:0892-21-0314 FAX:0892-21-2592
中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 伊予農業指導班	伊予市市場 127-1 TEL:089-982-0477 FAX:089-983-2313
南予地方局農林水産振興部 農業振興課	宇和島市天神町 7-1 TEL:0895-22-5211 FAX:0895-22-1881
南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 鬼北農業指導班	北宇和郡鬼北町興野々 1880 TEL:0895-45-0037 FAX:0895-45-3152
南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 愛南農業指導班	南宇和郡愛南町城辺甲 2420 TEL:0895-72-0149 FAX:0895-73-0319
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	八幡浜市北浜 1-3-37 TEL:0894-23-0163 FAX:0894-23-1853
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班	大洲市田口甲 425-1 TEL:0893-24-4125 FAX:0893-24-5284
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班	西予市宇和町卯之町 3-434 TEL:0894-62-0407 FAX:0894-62-5543